

区分	スペック・ 試行	担当課	砂防課
----	-----------------	-----	-----

事業区分	砂防	取組項目	砂防堰堤における間伐材残置型枠の使用
------	----	------	--------------------

現状・問題点・背景

砂防施設の設置箇所は、比較的自然環境に恵まれた場所が多い。一方、人々の意識や価値観は、モノから心の豊かさ、自然との調和などへと大きく変化しており、災害から県民の生命と暮らしを守る砂防事業にあっても、その安全性の確保に加え、各溪流が有する魅力や地域特性を活かしつつ、生態系や景観などにも十分配慮して整備を進めていく必要がある。

また、本県の森林面積は、県土の71%を占め、そのうち民有林の62%が人工林となっている。「水源かん養能力が劣る」として、スギ・ヒノキなどの人工林が批判されているが、針葉樹人工林自体が悪いのではなく、「その管理手入れが不適切であることが問題(針葉樹人工林の約3割が放置林)」とも言われており、流域全体で水源かん養機能の高い森林を造成するため、強度な間伐等の森林整備が不可欠である。

取組項目の内容

砂防堰堤の施工にあたり、設置位置が適合すれば間伐材による残置型枠使用を標準とする。
 [設置位置の選定]・間伐を実施する流域であること・間伐材の腐朽による万一の落下に対応が可能であること(人家直上流等での水通し部は避ける、管理型堰堤等で定期的に観察が行える箇所等)
 [型枠]・コスト縮減として、現場加工の生木使用、防腐処理無を標準とする。

取組項目の効果

農林水産部が実施する「水源の森林づくり推進モデル事業」と連携し、水源林緊急整備促進地域における間伐材の積極利用を進めることにより、間伐材の流通の活性化を図り、間伐の実施促進、放置林対策としての森林管理の推進を側面から支援する。また、木材を使用することにより、コンクリート構造物より人にやさしい、自然景観になじんだ構造物とすることができる。

イメージ(コンセプト)



堰堤直下に人家があり、流路断面も狭い。また下流に横断構造物があることから、水通し部分の間伐材使用を見合わせた事例